

# 校長室便り

(文責)  
ドー八  
日本人学校  
校長 酢谷昌義

## ミニミニ音楽発表会から

参観授業の後に「ミニミニ音楽発表会」を行いました。これは昨年度から参観日の恒例行事のようになってきているものです。全学年の音楽を担当してもらっている小島恵先生の指導で、毎回趣向を凝らした発表が行われます。

今回は合唱が中心でしたが、児童生徒数が増えているので歌声にもずいぶん元気が出てきたように感じました。特に、校歌を元気よく歌っていたのはとても嬉しいことでした。

校歌は儀式の時をはじめいろいろな時に歌います。校歌を元気よく歌う学校は、やはり学校全体に活気があふれています。児童生徒数の少なかった時から、ドー八日本人学校ではみんな一生懸命校歌を歌ってきました。新しく校歌を覚えた友達も、周りのみんなが

元気よく歌っているからすぐに覚えることができたのではないのでしょうか。

子ども達にとって音楽の時間はとても大切なものです。表現力を養う上で、欠かすことのできないものだと思います。

私の個人的な思いですが、まずは歌を元気よく歌えるということがとても大切だと思います。楽器を演奏することももちろん大切なことです。歌は自分がその気になって歌わなければ、しっかりとした声を出すことはできません。たたいたり吹いたりすればとりあえずは音が出せる楽器の演奏と、その点が大きく違っていると思います。

人前で歌うことの恥ずかしさや照れくささもあるでしょうが、そういう場できちんと

声が出せなければ本物ではないと思います。

ドー八日本人学校は、人前での発表機会がとても多い学校です。そういう一つ一つの発表の場を大切に、子ども達の持つ力を十分に発揮できるようにしたいと思います。

### 歌うことの大切さ!!



5・6年生：「こいのぼり」



1・2年生：「メダカの学校」



3・4年生：「春の小川」



中学部：「おぼろ月夜」



全校のみんなで一生懸命歌った「ゆかいに歩けば」

# 校長室便り

(文責)  
トー八  
日本人学校  
校長 酢谷昌義



自信を身につけるのに大切な発表

## 「強制」から「自主」へ

作家の曾野綾子さんが「教育は全て強制に始まる」とおっしゃっていました。曾野さんは、臨時教育審議会や教育改革国民会議の委員を務められ、教育に関する著書もお持ちです。曾野さんの本の中にも、教育は強制から始まるという意味のことが何度となく表れてきます。

私も同じように思う部分が多いぶんあり、このことについて考えてみたいと思います。

(曾野さんの著書の中から)  
義務教育の開始がまず強制だ。自分から1年生として学校に通いたい、などという子はまずいないだろう。普通の能力の子には、まず学校というところの状態もその意味も全く分からないのである。ただその時が来ると、何となく親たちに行かされるものだから、仕方なく行くことにするのである。多くの教育が強制で始まり、その内に自然な当人の選択に移行する。いつまでも強制ではないのだ。始め学校へ行くと泣いてばかりいたような1年生でも、やがて学校で結構おもしろいと思うことを見つけてそれに自発的に参加するようになる。

幼児と、初めて何かをする時、人は全て強制される。方が分からないから強制を受

け入れるほかはない。それが文化である。

強制に始まった教育は、次第に自然に2つの道をたどる。いやになってやめる人と、だんだんおもしろくなる人とである。(以下略)

私達が最も考えなければならぬのは、学ぶことがだんだんおもしろくなるように仕向けていくことではないかと思えます。そのためにはいさ

さかの厳しさがどうしても必要です。それを乗り越えて分かる・できる喜びを味わわせ、やればできるという経験を積むことで、自信を身につけていくことができるからです。

自信を身につけた子どもは、自主的に学ぶようになっていきます。自分からいろいろなことに挑戦してみようと考えられる、そんな子どもにしていきたいと思えます。

五月の詩

小学部低学年

「たんぽぽ」

かわさき ひろし

たんぽぽが

たくさん とんで いく

ひとつ ひつつ

みんな 名まえが あるんだ

おーい たぽんぽ

おーい ぽんた

おーい ぽんた

おーい ぽんた

川に おちるな



小学部中学年

「かぼちゃのつるが」

原田直友

かぼちゃのつるが

はい上がり

はい上がり

葉をひろげ

葉をひろげ

葉をひろげ

細い先は 竹をしっかりとにぎって

屋根の上に

はい上がり

短くなった竹の上に

はい上がり

小さなその先たんは

いつせいに

赤子のような手を開いて

ああ 今

空をつかもうとしている





# 校長室便り

(文責)  
ドー八  
日本人学校  
校長 酢谷昌義



場所を移して「フルーツバスケット」

## 盛り上がった「歓迎会」

児童生徒会執行部が企画した「新入生歓迎会」が行われました。「この会を通して今まで以上にもっとみんなが仲良くなっていきましょう!」と、歓迎会のねらいが始めに説明されました。

みんなで円くなり、まず全員が自己紹介を行いました。4月の始めにも自己紹介をしていますが、その時とは全く雰囲気の違いとても和やかでした。自己紹介の中でみんなに向けて一言付け足すように指示されていましたが、高学年・中学部になるとその一言がとても味のあるユーモアあふれたものが多く、感心して聞いていました。

その後はゲームです。3チームに分かれた「しっぽ取り」と、「フルーツバスケット」をして大いに盛り上がりました。ゲームの中でいろいろなハプニングが起こりますが、そのたびに上級生が下級生を指導し、またなだめたりすかしたりしてうまく進めていました。



改めて全員が自己紹介

あっという間に決められた時間が過ぎ、歓迎会の終わりになりました。「これから何年先までも、みんなで仲良く



「しっぽ取り」のルール説明

やっていこう!」という児童生徒会長のあいさつで終わりました。短い時間でしたが本当に楽しい会にできました。

4月の生活目標「みんなと仲良くして、早く学校に慣れよう」は、全員が達成できたと思います。みんながみんなのことをよく知っているドー八日本人学校の良さを、これからいろいろな場面で発揮して行ってほしいと思います。

五月の詩

小学部高学年

「星とたんぼぼ」

金子みすゞ

青いお空のそこふかく  
海の小石のそのように、  
夜がくるまでしずんで、  
昼のお星はめにみえぬ、

見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものでもあるんだよ、

ちつてすがれたたんぼぼの、  
かわらのすきに、だアまって、

春のくるまでかくれてる、  
つよいその根はめにみえぬ、

見えぬけれどもあるんだよ、  
見えぬものでもあるんだよ、

中学部

「山頂から」

小野十三郎

山にのぼると  
海は天まであがつてくる。  
なだれおちるような  
若葉みどりのなか。

下のほうで しずかに  
かつこうがないている。  
風に吹かれて高いところにと

だれでもしぜん  
世界のひろさをかんがえる。

ぼくは手を口にあてて  
なにか

下の方へ向かって叫びたくなる。  
五月の山は

ぎらぎらと明るくまぶしい。  
きみは山頂よりも上に

青い大きな弧をえがく  
水平線を見たことがあるか。

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校  
校長  
酢谷昌義



お手玉



フラフープ

## 頑張った「交流会」

5月3日の午前中にウム・アル・アマド小学校で、いろいろな国の子ども達が招かれ交流会が行われました。参加できるのは小学部の低学年という制限があり、ドーハ日本人学校からは1年生・2年生・3年生の9名が参加してきました。(当日1名欠席)

急な参加依頼の上に、できれば何か披露してほしいというリクエスト付きでした。特別な指導をする時間もないので、「ゆかいに歩けば」の合唱と、自分たちができる昔遊びを披露することにしました。

交流会に出かける日の朝、わずかな時間を使って練習を行いました。それだけの練習でも、子ども達は大勢の前でしっかりと発表ができました。

まずは自己紹介です。今までの子ども達はアラビア語での自己紹介、まだアラビア語でできない子ども達は英語で行いました。それから「ゆかいに歩けば」を元気よく歌うことができました。

次は昔遊びの披露です。「コマ回し」・「けん玉」・「お手玉」・「フラフープ」と、それぞれが得意なことを次々とみんなの前で行いました。

その後には、図工の授業を他の学校の子ども達と一緒に

受けました。

出かけるまでは、低学年だけの参加で不安もありましたが、そんな心配は全く必要ありませんでした。子ども達は大勢の前でも堂々としていました。交流会から帰り「楽しかった」と口々に話しているのを聞くと、低学年の子ども達がとても頼もしく見えてきました。



コマ回し



けん玉

今日は「こどもの日」  
みんなの  
健やかな成長を!!



合唱「ゆかいに歩けば」



鯉のぼりと一緒にみんなで記念撮影を行いました